

会報 ゆうほう

平成29年5月号

【辞令交付】



谷口理事長の辞令交付の挨拶に始まり「法人内の人事交流を図り、組織の活性化、一人ひとりの職員の成長等を促す効果を期待したい」と方針を述べられました。

平成29年度は新卒採用者5名、転職者3名、昇格者11名、及び法人内事業所異動者9名に対し、辞令が発令されました。

各事業所に「爽やかな新風を吹き込む人材」となるようエールを送りましょう。

【日南市福祉まちづくり 応援フェスティバル2017出展】



3月12日 晴天の元、日南総合運動公園に会場を移し、昨年まで続いた「日南市民まつり」の名称を衣変えて、開催されました。

今回の当園の展示では、介護ロボット「ハル」と人型ロボット「昭ちゃん」のコラボによる出展。

子供さんから介護従事者の方まで関心を持ってもらえるよう「体験コーナー」を設置しました。

業者から説明を受けた数人の同業者が装着して効果を確認して貰いました。介護ロボットの認知度はまだまだ低い中、今後も同様な企画を続けたいと感じました。

【心嬉しき花見】

「空枝や、届かぬ便り、やきもきと」4月初めの心境。ようやく10日を過ぎて、当園玄関横の桜が咲き始め、早速、花見ができる様に野外テーブルやパラソル取り出し、ユニット単位で楽しめる会場作りを行いました。



冬の間、体調が悪かった入居者もすっかり元気になって、心地よい春風と新緑の香り、耳をすませば鳥のさえずりに癒されて野外食を堪能しました。

ソメイヨシノは1週間で散り始め、代わりに八重桜の蕾(つぼみ)たちに、一時期は2種類の桜が共演し、通して約3週間楽しみ、感激でした。



【H29 感染症エピソード①】

1月、今年度初めてユニットで入居者様にインフルエンザのような症状が出、受診後陽性と分かりました。勿論、感染症対策は昨年12月から全館で実施中での出来事で、当園全体に緊張感が走りました。



当園はユニット個室(多床室も個室仕様)で、他の入居者様との接触を防げる対応ができ、それ以上の広がりがなく一安心しました。感染経路を検討しますと、職員、面会者にインフルエンザ発症なく、おそらく外出時の感染か?と推測。

又数週間後、他のユニットに散発的にインフルエンザが発生。感染経路については、職員が体調不良にも関わらず、出勤していたことが原因でした。(後でインフルエンザ陽性と判明)

※インフルエンザ症状を自覚した場合は職場に相談して指示を受けるように再度確認して周知を図りました。



【H29 感染症エピソード②】

今年の流行は昨年12月に始まり、4月下旬においても定点観測でインフルエンザ17名、感染性胃腸炎21名と例年になく長期化が特徴です。さすがに精神的にも看護・介護職員は疲労の度合が高まりました。



ところで、当園の職員数は約100名、自分の家族、学校等関連を含めると全体的には数倍以上の交友関係が推測できます。このことから感染症警報が発令される時期には、必ずと言って、感染者が出るのは致し方ないと考えます。

当園においても今年は特に多く下記のとおりでした。

内訳	インフルエンザ	感染性胃腸炎	マイコプラズマ等	家族感染も本人はなし	罹患率	全職種総人数
介護職員自身が感染	6名	1名	2名	—	0.12%	78名
看護職員自身が感染	1名	0名	0名	—	0.08%	12名
給食職員自身が感染	2名	3名	0名	—	0.22%	22名
事務等職員自身が感染	3名	0名	0名	—	0.15%	19名

介護職員の家族が感染	14名	0名	0名	13名	0.08%
看護職員の家族が感染	3名	0名	0名	3名	0.00%
給食職員自身の家族が感染	6名	1名	1名	6名	0.00%
事務等職員自身の家族が感染	3名	0名	0名	1名	0.33%

罹患率(りかんりつ)は病気にかかる割合との意味ですが、パーセンテージ的に見ると、職員が日頃の健康管理に留意していることが、客観的に分かります。

当園においては、ウィルスを「持ち込まない」「持ち込ませない」「感染が出たら封じ込める」を念頭に対策を行います。

※ 感染症の疑いを含め、職員自身は勿論のこと、職員の家族が完治して陰性の診断書か医師の見解を自己申告書にして提出してもらい出勤の許可を出します。(自宅待機は7日間)



※ 感染性胃腸炎の場合では、ノロウイルス感染が最も留意する必要があると認識しています。

特に給食スタッフには、当園費用負担による(1万円)島津(PCR)法での検査を行い陰性の結果を確認して出勤許可を出します。特徴として、微量のウィルス、また各遺伝子型のウィルスを検出でき信頼性の高い検査を実施できる点にあります。

※ 介護職員等は感染疑い時、イムノクロマト法で検査しますが、本人が午前中に直接検査機関に検体を提出すると午後には結果通知が当園に直接FAXが届き、出勤の指示を出す体制にしています。人員確保のため、有効なシステムと言えます。



介護職員はユニット毎に配置している関係、同じユニットの職員が同時期に感染症にかかると勤務シフトに多大な支障が出ます。介護職員自身が一番心配にしていると言えます。

「こぼれ話」として、当園の6階にゲストルーム2部屋を整備しています。介護職員から「家族にインフルエンザが出てしまった。自分が休むと、大変迷惑がかかるのでゲストルームを使用して勤務に就きたい。」との申し出を受け、逆に感謝したことでした。



感染症対策委員会を3月下旬に開催し、次のことの重要性を再確認しました。

- ① 職員及び家族の健康管理の重要性
- ② 感染症時の換気と密封性の確保
- ③ 感染症流行の適切なテーブル間隔の配慮(濃厚接触の距離) 例) 会話する普通の距離2m以上を基準とする。
- ④ ③の短期ユニット内での利用感染者が共同スペースで座った位置、時間帯を検証。

距離2m付近の濃厚接触者の有無を調べ、感染リスクの高い方とそれ以外の方を検討し居室替えをした結果、幸いに、二次感染を免れました。

大切な入所者様をケアする上で、「感染症を防ぐ」、「感染しても蔓延を防ぐ」等の対策は、経営の上でも最重要課題です。施設環境、最新情報に留意していきたいと思っております。因みに、3月中旬以降の感染は無かったことをご報告します。今後とも、ご面会時の手洗い等は年間を通してお願い致します。